

令和 5 年 6 月 19 日現在

機関番号：24506

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2018～2021

課題番号：18H03076

研究課題名(和文) 看多機で活躍する看護職のコンピテンシーの明確化とケアの質評価システムの構築

研究課題名(英文) Competencies of nursing professionals working in the KANTAKI and developing a quality of care evaluation system.

研究代表者

坂下 玲子 (Sakashita, Reiko)

兵庫県立大学・看護学部・教授

研究者番号：40221999

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,200,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の成果は次の3つである。1. 看多機で活躍する看護師のコンピテンシーの明確化：質的研究により看多機で活躍する看護師の行動特性を明らかにし、アンケートによる全国調査を実施しその妥当性を検討した。2. 看多機のケアの評価指標の開発：臨床で測定可能な看護ケアを設定するため88項目からなるケア行動指標リストを作成し、全国の看多機729か所を対象にアンケート調査を実施し評価指標を開発した。3. 看多機運営上の課題の検討：管理者を対象とした質的研究を行い、それを基にアンケート調査を実施し厚生労働省のデータと突合し分析を進め、安定した運営に関連する要因、離職率に関連する要因等について明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

医療ニーズの高い人々が地域で幸せに暮らしていくためには、医療と療養生活支援に専門性をもつ看護師の活躍が不可欠である。看多機は、看護職が主体となり、医療依存度の高い人々に対応した複合型サービスを提供するため、利用者や家族の状態に即応し柔軟に対応できる施設である。そこで活躍する看護師のコンピテンシーを明らかにし、ケア行動に関する指標を開発することで、地域での療養生活を支えるための基盤を提供した。また、その経営基盤について検討することで、よりよい看護ケアの実現・普及を図り持続的に組織を運営するためのエビデンスを提供した。

研究成果の概要(英文)：The outcomes of this study are as follows: 1. Clarification of the competencies of nurses who work in a new long-term care service(Kantaki): We clarified the behavioral characteristics of nurses who work in Kantaki through qualitative research. We conducted a nationwide survey by questionnaire to examine its validity. 2. Development of evaluation indicators of nursing care in Kantaki: We developed a list of 88 items to set nursing care that can be measured in clinical settings and distributed the list to 729 centers nationwide to complete the evaluation indicators. 3. Probing issues in the management of Kantaki: Based on a qualitative study of managers, we conducted a questionnaire survey. Then, the results were analyzed by comparing them with data from the Ministry of Health, Labor and Welfare, and factors related to stable operation and turnover were clarified.

研究分野：基礎看護

キーワード：看多機 看護職 コンピテンシー 行動特性 地域包括ケア

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

わが国は超高齢社会に突入し、疾病構造や社会構造の変化、国の財政上の問題に直面しており、地域で療養生活を支え看取る体制作りが急務となっている。平成12年介護保険法が成立し訪問看護ステーションが明文化されたが、限られた時間の中での対応を強いられていた。そこで、平成24年、看護訪問・訪問介護サービス、通所サービス、泊まりサービスなど

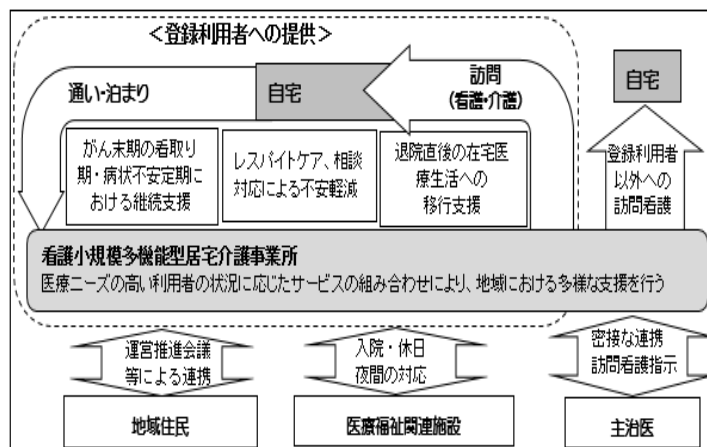


図1 看多機の役割

多様なサービスを1つの事業者が提供する「複合型サービス」が創設され、平成27年度より「看護小規模多機能型居宅介護(看多機)」に名称変更された(図1)。看多機は看護職が主体となり、医療依存度の高い人々に対応した複合したサービスを提供できるため、利用者や家族の状態に即応し柔軟に対応できるが、歴史が浅いため、その役割は必ずしも明確ではなく、普及は進んでいない。

地域で医療依存度の高い人々の健康問題を確実に改善するためには、まずは看多機に従事する看護師に必要なコンピテンシーを明らかにする必要がある。コンピテンシーとは卓越した成果を生む基となる総合的な専門能力のことであり、単に知識、技術だけでなく、意識・姿勢・考え方・行動様式を伴う能力のことである(McClelland et al., 1977)。次に、看護の質向上のための質評価・改善システムについて検討する必要がある。

よりよい看護ケアの実現・普及を図るためには経済評価は不可欠であるが、指標とエビデンス不足により、これまで看多機経営についての十分な議論はされてきていない。開設事業所数は、年々増加してはいるものの2017年3月時点で343施設(日本看護協会, 2018)であり十分普及しているとは言い難い。そこで本研究では看多機の運営の実態を明らかにし、その課題について検討する。

### 2. 研究の目的

本研究の目的は、(1)看多機で働く看護師のコンピテンシーを明確にすること、(2)看多機におけるケア実践の評価指標を開発すること、(3)看多機の運営上の課題の検討することである。

### 3. 研究の方法

#### (1)看多機で働く看護師のコンピテンシーを明確化

質的記述的研究:厚生労働省のホームページ「介護事業所・生活関連情報検索」のうち各項目の平均が4以上の施設を選定基準とした。また北海道から九州・沖縄地方に至る全国の看多機の状況が反映されるように各地域より便宜的に施設を選出した。データ収集は、コンピテンシーの開発のための面接方法である行動結果面接法 Behavioral Event Interview (Spencer & Spencer, 1993/2011)を参考に作成したインタビューガイドを用い、看護実践の文脈の中で、「どのような行為を行い、それがどのような結果につながったのか」を語ってもらった。データ分析は、「主

題分析」(Spencer & Spencer, 1993/2011)を用いて行った。まず成果と考えられるものを抽出した上で、それにつながると考えられる行動を抽出した。兵庫県立大学看護学部・地域ケア開発研究所研究倫理委員会の承諾を得て実施した。

エキスパートパネルによる妥当性の検討：の結果抽出された看多機の看護師の行動特性を基に質的・帰納的に分析し、看多機で働く看護師のコンピテンシー案を作成した。作成したコンピテンシー案について、看多機の運営者、実践看護師からなるエキスパートパネルを2回開催し、内容妥当性の検討を行った。対象施設は2018年から2019年に実施したインタビュー調査に参加した24施設のうち、優れた看護を実践していた7施設とした。そこから、看護ケアに責任を持つ施設管理者及び看多機のケアに熟達していると施設長が判断し研究協力を承諾した看護師および施設管理者を対象とした。本研究は兵庫県立大学看護学部・地域ケア開発研究所研究倫理委員会の承認を得て実施した。

## (2) 看多機におけるケア実践の評価指標の開発

看多機における看護ケアの評価指標案の作成：(1)で作成したコンピテンシーの内容を基に、臨床で測定可能な看護行動を設定するため、専門家による協議を行い、評価指標を作成した。

評価指標を用いた全国調査：で作成した行動指標リストを2021年6月時点で公開されていた全国の看多機729か所に配布し、所属している看護師から無記名で回答を求めた。本研究は兵庫県立大学看護学部・地域ケア開発研究所研究倫理委員会の承認を得て実施した。

## (3) 看多機運営の実態調査および課題の検討

看多機の運営状況の実態調査：「介護事業所・生活関連情報検索」のウェブサイトを用いて、2018年12月31日の時点で登録されている全看多機を対象とし施設属性、運営状況、従業員情報等を抽出した。また、同ウェブサイトから都道府県別の看多機数、小規模多機能型居宅介護数(以下、小多機数)、訪問看護事業所数を抽出した。「国勢調査」等から都道府県別の高齢化率、人口密度、人口の情報を収集した。分析は度数分布・記述統計分析、スピアマンの相関係数を用いた相関分析とした。

運営方針からみる看多機の特徴：看多機事業所の管理者が掲げている運営方針、介護サービスに関する内容とその特徴、また看多機事業所の特徴からみた施設実態を明らかにするために2018年12月時点で厚生労働省が公表している「介護サービス情報公表システム」に登録している看多機479施設の運営方針に関するテキストデータ(計1057センテンス)を分析対象とし分析した。テキストマイニング解析はKH Coder Ver.3を用い、1)抽出語分析、2)語と語のつながりの特徴を把握するための共起ネットワーク分析、3)全体的に特徴的ではない語を抽出するための対応分析を行った。運営方針や介護サービスの特徴に関するテキストデータに、看多機に特徴的なサービスを説明する語を反映させている施設(A群)と、使用していない施設(B群)の2群に分類し、2群について、データベース上の、施設の特徴、従業員の特徴、サービス提供状況の項目について比較を行った。統計解析には、SPSSver.28を用いた。

運営上の課題の検討：2020年10月1日から12月31日まで、日本国内で営業している看多の管理者全員を対象に、かんたきの運用に関するアンケートを実施した。重回帰分析により、利

用率の上昇に関連する要因を明らかにした。本研究は兵庫県立大学看護学部・地域ケア開発研究所研究倫理委員会の承認を得て実施した。

#### 4. 研究成果

##### (1) 看多機で働く看護師のコンピテンシーを明確化

質的記述的研究：対象者は、24施設で働く看護師29人であった。得られたデータを分析した結果、看多機で働く看護師が認識している成果は、【利用者・家族の生活の質の向上】【利用者・家族に提供するケアの質の向上】の2カテゴリーと8サブカテゴリーが見出された。これらの成果につながると考えられた内容を検討し看多機で働く看護師の行動特性として、【その人の生活の中で歩み寄り続ける】【その人や家族の強みを引き出し生活に取り入れる】【個々に合わせ臨機応変にケアを創造する】【命をまもる】【看取りを支える】【その人の居場所をつくる】【その人を支えるチームをつくる】の7カテゴリーと37サブカテゴリーが抽出された。

エキスパートパネルによる妥当性の検討：対象者は、7施設で働く看護師6名、施設管理者5名であった。看多機で活躍する看護師のコンピテンシーについて、フォーカスグループインタビューを2回実施し、さらにエキスパートとともに内容を精練した。このプロセスを経ることによって、先行研究において抽出された行動特性の内容妥当性は確保できた。その人の希望に沿いながら「生きる」ための支援を重視するという意見から【看取りを支える】は【最期まで「生きる」を支える】に修正された。また【その人を支えるチームをつくる】は、平時から地域資源を活用する必要性の指摘を受けて【その人を地域で支えるチームをつくる】に修正された。また、家族の介護負担を軽減する支援の重要性から【家族を支える】が新たに追加された。変更のなかった【その人の生活の中で歩み寄り続ける】【その人や家族の強みを引き出し生活に取り入れる】【個々に合わせ臨機応変にケアを創造する】【命をまもる】【その人の居場所をつくる】と合わせ、大項目は8つとなった。小項目の妥当性についても検討と修正した結果、37項目から48項目となった。

##### (2) 看多機におけるケア実践の評価指標の開発

看多機における看護ケアの評価指標案の作成：専門家による協議により88項目からなる行動指標リストを作成した。

評価指標を用いた全国調査：227施設(31.1%)、865人の看護師より回答がえられた。【その人の生活の中で歩み寄り続ける】について8項目のケア行動が設定され、全ての項目について8割以上が実践していると回答した。【その人や家族の強みを引き出し生活に取り入れる】では、8項目のケア行動が設定され、全ての項目について8割以上の人がある程度・かなり・十分に実践していると回答した。【個々に合わせ臨機応変にケアを創造する】では、10項目のケア行動が設定された。その中で「介護の点数や自己負担額に応じたサービスをケアマネージャーと話し合い、サービス内容を見直す」、「その人の状況の変化に合わせて、迅速に緊急の泊まり等の調整をする」の2項目は、やや実践している割合が低い傾向であった。【命をまもる】では、12項目のケア行動が設定され、「言語療法士等の専門職と連携しながら食べられるように間接訓練を実施する」の項目は4割程度と実践率は低かった。【最期まで「生きる」を支える】では、15項目のケア行動を設定した。「終末期にその人と家族/重要他者が同じ部屋で寝泊まりできるように、部屋の環境を調整する」の項目は6割の実施率であった。【家族を支える】では、9項目のケア

行動を設定した。「看取りを経験した家族の状況をアセスメントし、必要時は専門的な支援につなげる」では半分程度の実施率であった。【その人の居場所をつくる】では、6項目ケア行動を設定し、すべての項目で8割程度の実施率であった。【その人を地域で支えるチームをつくる】では、19項目のケア行動を設定したが、全体的に実践していない人の割合が他のカテゴリーより多い結果となった。

### (3) 看多機の運営上の課題の検討

看多機の運営状況の実態調査：全国の看多機数は479のうち、所在地は関東が120(25.1%)で最も多かった。都道府県別の看多機数は平均 $10.19 \pm 10.51$ であった。市町村別でみると、1724の市町村のうち233(13.5%)に看多機が所在した。看多機数と有意な相関(相関係数)を認めたのは、小多機数(.765)、訪問看護事業所数(.747)、人口(.703)、人口密度(.513)が正の相関、高齢化率(-.442)が負の相関であった。地域別の看多機数には大きなばらつきがみられ、高齢者の割合の高い地域ではなく、人口の多い地域や人口の密集した地域に多く開設されていた。自由記載内容の分析において、利用者確保につながった取り組みは【多様な媒体を用いた広報活動】【地域住民との関係性の構築】【多様なリソースの活用】【提供サービスの強化】【看多機サービスの活用方法の周知】【依頼元への事例のフィードバックによる信頼関係の構築】が抽出された。職員確保につながった取り組みは【多様なリソースを用いたリクルート活動】【職場・業務を知る機会の提供】【採用した職員を維持する活動】が抽出された。

運営方針からみる看多機の特徴：運営方針とサービスの特徴のテキストに、看多機に特徴的なサービスを説明する語を使用している事業所は229(A群:39%)、使用していない事業所365(B群:61%)であった。処置内容の13項目中、人工肛門(ストマ)の1項目を除く、12項目で、B群より、A群の方が有意に高かった。

運営上の課題の検討：593施設中154施設の管理者からの回答を分析した。有効回答施設の平均利用率は79.4%であった。また、損益分岐点(収入が費用を上回る点)の平均が20.9であるのに対し、実際の利用者数の平均は21.1であった。重回帰分析では、損益分岐点、損益分岐点に対する利用者の余剰(収入の余裕)、管理者としての在職月数、法人の種類(非営利)、訪問看護事業所の運営による看多機の利益が、利用率に大きな影響を与えていた。損益分岐点と利用率の間には正の関係が認められ、利用者を増やしてもコスト削減には単純につながらないこと、個々の顧客のニーズに合ったサービスを提供することで利用率が低下する可能性があることが明らかとなった。これらの課題を解決するためには制度改革が必要だと考えられた。

#### <引用文献>

日本看護協会(2018)看護小規模多機能型居宅介護(複合サービス), Retrieved from:  
<https://www.nurse.or.jp/nursing/zaitaku/kantaki/index.html> (検索日 2018年1月)  
Spencer, L. M., Spencer, S. M. (1993) / 梅津章順, 成田攻, 横山哲夫(2011): コンピテンシー・マネジメントの展開 [完訳版], 生産性出版, 東京.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計9件（うち査読付論文 9件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 7件）

1. 著者名 WATANABE Rika, NAKANISHI Eiko, HAGA Kuniko, ONO Hiroshi, MUYA Makiko, AWAMURA Kenji, MANABE Masashi, NII Manabu, KAWANO Takanori, SAKASHITA Reiko	4. 巻 20
2. 論文標題 Factors that Affect the Estimated Revenue of Kantaki Services:	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Asian Journal of Human Services	6. 最初と最後の頁 34 ~ 47
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14391/ajhs.20.34	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 Ono Hiroshi, Haga Kuniko, Nakanishi Eiko, Watanabe Rika, Manabe Masashi, Awamura Kenji, Kawano Takanori, Nii Manabu, Muya Makiko, Sakashita Reiko	4. 巻 7
2. 論文標題 Factors and Challenges in Increasing the Utilization Rate of a New Long-term Care Service (Kantaki) in a Superaging Society: Cross-sectional Study	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Asian/Pacific Island Nursing Journal	6. 最初と最後の頁 e45779 ~ e45779
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2196/45779	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 Sakashita Reiko, Muya Makiko, Ono Hiroshi, Watanabe Rika, Haga Kuniko, Awamura Kenji, Manabe Masashi, Nii Manabu, Nakanishi Eiko, Kawano Takanori	4. 巻 41
2. 論文標題 Behavioral Characteristics of Nurses Working in Nursing Multifunctional In-home Long-term Care Service	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Journal of Japan Academy of Nursing Science	6. 最初と最後の頁 665 ~ 673
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5630/jans.41.665	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 撫養真紀子、渡邊里香、小野博史、中西永子、栗村健司、芳賀邦子、河野孝則、新居学、真鍋雅史、坂下玲子	4. 巻 印刷中
2. 論文標題 看護小規模多機能型居宅介護で活躍する看護師のコンピテンシーの内容妥当性の検討	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 社会医学研究	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hiroshi Ono, Kuniko Haga, Eiko Nakanishi, Rika Watanabe, Masashi Manabe, Kenji Awamura, Takanori Kawano, Manabu Nii, Makiko Muya, Reiko Sakashita	4. 巻 7
2. 論文標題 Factors and Challenges in Increasing the Utilization Rate of a New Long-term Care Service (Kantaki) in a Superaging Society: Cross-sectional Study	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Asian/Pacific Island Nursing Journal	6. 最初と最後の頁 e45779-e45779
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2196/45779	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 坂下 玲子, 撫養 真紀子, 小野 博史, 渡邊 里香, 芳賀 邦子, 粟村 健司, 真鍋 雅史, 新居 学, 中西 永子, 河野 孝典	4. 巻 41
2. 論文標題 看護小規模多機能型居宅介護で活躍する看護師の行動特性	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本看護科学会誌	6. 最初と最後の頁 665-673
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Rika WATANABE, Eiko NAKANISHI, Kuniko HAGA, Hiroshi ONO, Makiko MUYA, Kenji AWAMURA, Masashi MANABE, Manabu NII, Takanori KAWANO, Reiko SAKASHITA	4. 巻 20
2. 論文標題 Factors that Affect the Estimated Revenue of Kantaki Services	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Asian Journal of Human Services	6. 最初と最後の頁 34-47
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14391/ajhs.20.34	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 渡邊里香, 小野博史, 芳賀邦子, 真鍋雅史, 粟村健司, 撫養真紀子, 新居学, 中西永子, 坂下玲子	4. 巻 4
2. 論文標題 看護小規模多機能型居宅介護の地域分布の実態把握	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Phenomena in Nursing	6. 最初と最後の頁 o11 ~ o19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24640/purs.4.1_011	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Nii M., Tsuchida Y., Kato Y., Uchinuno A. and Sakashita R.	4. 巻 Special Issue
2. 論文標題 A Convolution Neural Network based Nursing-care Text Classification Model with a New Filter for Expressing Dependency Relations of Words	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 The2018 IEEE International Conference on Systems, Man, and Cybernetics	6. 最初と最後の頁 871, 876
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計15件 (うち招待講演 1件 / うち国際学会 4件)

1. 発表者名 芳賀邦子, 渡邊里香, 小野博史, 中西永子, 撫養真紀子, 粟村健司, 河野孝典, ... 坂下玲子.
2. 発表標題 看護小規模多機能型居宅介護の管理者が実践している職員確保と利用者確保に関する工夫と課題
3. 学会等名 第26回日本看護管理学会学術集会, 8月 (福岡)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 粟村健司, 小野博史, 渡邊里香, 中西永子, 河野孝典, 撫養真紀子, ... 坂下玲子
2. 発表標題 定量テキスト分析による看護小規模多機能型居宅介護の運営方針と介護サービスの特徴
3. 学会等名 第42回日本看護科学学会学術集会, 12月 (広島)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 中西永子, 渡邊里香, 小野博史, 撫養真紀子, 粟村健司, 河野孝典, 新居学, 芳賀邦子, 真鍋雅史, 坂下玲子
2. 発表標題 看護小規模多機能型居宅介護の看護師・介護士の離職率に関連する要因の検討
3. 学会等名 第25回日本看護管理学会学術集会 (横浜/Web開催)
4. 発表年 2021年



1. 発表者名 芳賀邦子, 渡邊里香, 小野博史, 中西永子, 撫養真紀子, 粟村健司, 河野孝典, ... 坂下玲子.
2. 発表標題 看護小規模多機能型居宅介護の管理者が実践している職員確保と利用者確保に関する工夫と課題
3. 学会等名 第26回日本看護管理学会学術集会, 8月 (福岡)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 粟村健司, 小野博史, 渡邊里香, 中西永子, 河野孝典, 撫養真紀子, ... 坂下玲子
2. 発表標題 定量テキスト分析による看護小規模多機能型居宅介護の運営方針と介護サービスの特徴
3. 学会等名 第42回日本看護科学学会学術集会, 12月 (広島)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 中西永子, 渡邊里香, 小野博史, 撫養真紀子, 粟村健司, 河野孝典, 新居学, 芳賀邦子, 真鍋雅史, 坂下玲子
2. 発表標題 看護小規模多機能型居宅介護の看護師・介護士の離職率に関連する要因の検討
3. 学会等名 第25回日本看護管理学会学術集会 (横浜/Web開催)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Hiroshi Ono, Makiko Muya, Rika Watanabe, Kenji Awamura, Kuniko Haga, Masashi Manabe, Manabu Nii, Reiko Sakashita.
2. 発表標題 Challenges and interventions in managing KANTAKI in Japan: A qualitative study.
3. 学会等名 The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 小野博史, 渡邊里香, 撫養真紀子, 粟村健司, 中西永子, 河野孝典, 新居学, 芳賀邦子, 真鍋雅史, 坂下玲子
2. 発表標題 看護小規模多機能型居宅介護サービスの運営年数が経営に与える影響
3. 学会等名 日本看護管理学会第24回学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 渡邊里香, 撫養真紀子, 小野博史, 粟村健司, 中西永子, 芳賀邦子, 真鍋雅史, 新居学, 河野孝典, 坂下玲子
2. 発表標題 看護小規模多機能型居宅介護の看護師のコンピテンシーの内容妥当性の検討 - エキスパートパネルによる調査
3. 学会等名 日本看護科学学会第40回学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Watanabe R, Ono H, Haga K, Manabe M, Muya M, Awamura K, Nii M, Sakashita R
2. 発表標題 The actual state of the prevalence of new home care service with the secondary analysis of data on Official Statistics in Japan
3. 学会等名 2019 AAPINA and TWNA Joint International Conference (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Ono H, Muya M, Watanabe R, Awamura K, Haga K, Manabe M, Nii M, Sakashita R
2. 発表標題 Challenges and interventions in managing KANTAKI in Japan : A qualitative study
3. 学会等名 The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 撫養真紀子, 小野博史, 渡邊里香, 芳賀邦子, 粟村健司, 新居学, 真鍋雅史, 坂下玲子
2. 発表標題 看護小規模多機能型居宅介護で働く看護師の行動特性分析
3. 学会等名 第39回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 粟村健司, 小野博史, 新居学, 渡邊里香, 真鍋雅史, 芳賀邦子, 撫養真紀子, 坂下玲子
2. 発表標題 テキストマイニングによる看護小規模多機能型居宅介護の運営方針の分析
3. 学会等名 第23回日本看護管理学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Sakashita R.
2. 発表標題 Current Trends in Health Disparity Research in Japan
3. 学会等名 Asian American/Pacific Islander Nurses Association, 15 th Annual International Conference (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Haga K., Muya M., Sakashita R., Ono H., Manabe M., Nii M., Watanabe R. and Uchinuno A.
2. 発表標題 The Elements of Quality in Home Care Nursing
3. 学会等名 East Asian Forum of Nursing Scholars (国際学会)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

1000スマイル  
<http://1000-smile.com/>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	中西 永子  (Nakanishi Eiko)  (10843013)	兵庫県立大学・看護学部・助教   (24506)	
研究分担者	眞鍋 雅史  (Manabe Masashi)  (20537071)	嘉悦大学・ビジネス創造学部・教授   (32801)	
研究分担者	渡邊 里香  (Rika Watanabe)  (30822762)	兵庫県立大学・看護学部・助教   (24506)	
研究分担者	撫養 真紀子  (Muya Makiko)  (60611423)	兵庫県立大学・看護学部・教授   (24506)	
研究分担者	小野 博史  (Ono Hiroshi)  (70707687)	兵庫県立大学・看護学部・講師   (24506)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	河野 孝典  (Kawano Takanori)  (70876820)	兵庫県立大学・看護学部・助教    (24506)	
研究分担者	新居 学  (Nii Manabu)  (80336833)	兵庫県立大学・工学研究科・准教授    (24506)	
研究分担者	粟村 健司  (Awamura Kenji)  (80822741)	兵庫県立大学・看護学部・助教    (24506)	
研究分担者	芳賀 邦子  (Haga Kuniko)  (90792565)	東京情報大学・看護学部・助教    (32515)	
研究分担者	濱上 亜希子  (Hamaue Akiko)  (70780485)	兵庫県立大学・看護学部・助教    (24506)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関